

赤松小三郎研究会主催の三谷博氏の講演会に参加

上原 昇（2組）

12月10日（土）の午後、関東同窓会赤松小三郎研究会主催による第9回目となる講演会が日比谷図書文化館で開催されました。参加者は97名で、コロナ禍の中では盛会となりました。参加者のうち上田高校同窓生は36名とのことですから、当会が同窓会を超えた集まりになっていることが分かります。

同期の出席は筆者の他、丸山暢久君、成澤文和君（いずれも4組）の三人。

今回の講師は三谷博氏（72歳、広島県福山市出身、東大文学部国史学科卒、文学博士、東大教授を経て現在は東大名誉教授）です。

演題は「赤松小三郎の立ち位置 - 公論と暴力の比較史を背景に -」というもので、安倍晋三元首相襲撃事件の後だけに、興味深いものでした。

講演の冒頭、「私は上田には学生時代に1回だけ訪れています。大学の同僚だった北岡伸一さんと御厨貴さんと一緒でした。上田城址公園で赤松小三郎の碑を見つけたことを思い出します。」と上田と赤松との縁に触れていました。

講演の前半1時間では赤松に関わる話を、後半1時間では明治維新20年の概説を語っていただきました。「明治維新を1時間で話すのは自信がないがやってみます」との言葉どおり、予定の時間をオーバーする熱弁でありました。

質疑の場では、研究会会員からの鋭い質問も飛び交い、当講演会いつもながらの、中身の濃いものでした。

特に赤松暗殺を薩摩藩の陰謀説とするか、桐野利秋（薩摩藩士）の単独説をとるかについてのやりとりは一瞬、会場が緊迫しました。

三谷氏は「陰謀説は確たる証拠がない限りとるべきでない」と述べていました。

学者ならではの言葉と受け止めましたが、真相はどうなのでしょう。

詳しい内容は、近々、赤松小三郎研究会から関東同窓会HPに詳細な報告が掲載されると思いますので、関心のある方は、そちらを参照ください。



三谷博氏

（次ページに講演会の写真2葉）

【写真 1：講演する三谷博氏】



【写真 2：講演会場の様子】



(2022.12.12 記)

以上